

A区分・C区分共通
No.1(実演芸術・メディア芸術)

令和7年度舞台芸術等総合支援事業(学校巡回公演)出演希望調書(実演芸術・メディア芸術 共通)

別添	なし
----	----

分野、種目(該当する分野、種目を選択してください。)

分野	演劇	種目	人形劇
----	----	----	-----

応募区分(応募する区分を選択してください。)

応募区分	A区分
------	-----

複数応募の状況(該当するものを選択してください。) ※B区分継続団体については、応募企画数から除く

複数応募の有無	無	応募総企画数	
---------	---	--------	--

複数の企画が採択された場合の実施体制(該当するものを選択してください。)

※複数応募の有無で【無】を選択された場合は、未記入で構いません。(グレーアウトされます。)

複数の企画が採択された場合の実施体制	
--------------------	--

文化芸術団体の概要

ふりがな 制作団体名	コウエキザイダンホウジンエドイトアヤツリニンギョウユウキザ		団体ウェブサイトURL
	公益財団法人江戸糸あやつり人形結城座		http://youkiza.jp/
代表者職・氏名	代表理事・田中克昌		
制作団体所在地	〒	184-0015	最寄り駅(バス停) 武蔵小金井(中大附属高校)
	東京都小金井市貫井北町3-18-2		
電話番号	042-322-9750		
ふりがな 公演団体名	コウエキザイダンホウジンエドイトアヤツリニンギョウユウキザ		団体ウェブサイトURL
	公益財団法人江戸糸あやつり人形結城座		http://youkiza.jp/
代表者職・氏名	代表理事・田中克昌		
公演団体所在地	〒	制作団体に同じ	最寄り駅(バス停) 制作団体に同じ
	制作団体に同じ		
制作団体 設立年月	2009年12月		
制作団体組織	役職員		団体構成員及び加入条件等
	代表理事 田中克昌 理事 ボイド眞理子、葛西聖司、古谷伸太郎 評議員 桂真菜、犬丸治、吉田誠男		演技部 8名 美術部 2名 制作部 5名 加入条件: 古典と新作の両輪をもって江戸糸あやつり人形芝居の在り方を追求し、身をもって行動できる者。
事務体制 事務(制作)専任担当の有無	事務(制作)専任の担当者を置く	本事業担当者名	前田玲衣
経理処理等の 監査担当の有無	有	経理担当者	和田光

<p>本応募にかかる連絡先 (メールアドレス)</p>	<p>seisaku@youkiza.jp</p>
<p>制作団体沿革・ 主な受賞歴</p>	<p>江戸時代の寛永12年(1635年)に初代結城孫三郎が創設。現在の十三代目結城孫三郎まで388年の歴史を持ち、「国の記録選択無形民俗文化財」及び「東京都の無形文化財」に指定されている伝統ある糸あやつり人形劇団。 現在では古典の継承発展のみならず、新作、写し絵など公演活動の場を拡げ、これらに対して、芸術祭文部大臣賞、東京都知事賞など数々の榮譽を受ける。 また海外公演や国際共同制作も積極的に行っており、ベオグラード国際演劇祭では「マクベス」で特別賞と自治体賞を受賞、日仏国際共同「屏風」では、パリの国立劇場コリヌ劇場を皮切りにヨーロッパ各地を6年間に渡り約50公演巡演し、2007年アビニオン演劇祭のオープニングに招聘されるなど、国内外において高く評価されている。(2007年アビニオンにおいては、古典公演「綱領、本朝廿四孝」も同時に招聘され、結城座の古典と新作両方の活動に高い評価を得た。)平成21年12月18日に公益財団法人の認定を受ける。 令和3年6月、十二代目結城孫三郎の長男、結城数馬が十三代目結城孫三郎を襲名し、新しい時代に向けて歩を進めつつある。十二代目は三代目両川船遊となる。</p> <p>1956年5月 東京都の無形文化財認定(団体として) 1957年芸術祭文部大臣賞(団体として)「きりしとほろ上人伝」 1973年東京都知事賞(団体として) 1980年東京都知事賞(団体として) 1986年ベオグラード国際演劇祭特別賞(団体として)「マクベス」 1998年11月 国の「記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財」選定(団体として) 2012年狸袋演劇祭特別賞(団体として)「ミス・タナカ」 2021年3月 第42回松尾芸能賞 特別賞(十二代目結城孫三郎)</p>
<p>学校等における 公演実績</p>	<p>戦後、昭和21年より学校視聴覚教育のため日本の劇団で初の小中学校巡演を開始し、青少年育成活動を積極的に行ってきました。伝統芸能の古典演目を中心に、学校及び会館にて1万回以上の公演実績があります。 学校公演としては、平成20年度小金井市内小学校6校巡演。平成21年、22年度と小金井市において小、中学生に20回にわたる江戸糸あやつり人形の体験学習授業を実施、生徒たちによる糸あやつり人形発表会開催を指導。その他令和3年までに、桐蔭学園初等部・中等部、千葉日本大学付属小学校、文京区第五中学校、高松市内小学校2公演、浦和ルーテル学院小・中・高、千葉県鎌ヶ谷小学校、さいたま市片柳小学校、恵泉学園中等部、昭和女子大学、東京学芸大学、女子美術大学など。人形の解説と体験付きで、古典と新作の両演目を上演してきました。</p> <p>平成6年 「三番叟」「弥次喜多道中記」「杜子春」「寿獅子」「伊達娘恋緋鹿子」 2公演／「三番叟」「弥次喜多道中記」「杜子春」「寿獅子」「伊達娘恋緋鹿子」 5公演 平成7年 「オズの魔法使い」 4公演 平成8年 「三番叟」「証誠寺の狸ばやし」「寿獅子」「うさぎのおながえし」 1公演／「三番叟」「弥次喜多道中記」「杜子春」「寿獅子」 1公演 平成10年 「昭和怪盗伝」 1公演／古典 3公演 平成11年 「三番叟」「証誠寺の狸ばやし」「寿獅子」「杜子春」2公演／「寿獅子」「オズの魔法使いたち」2公演 平成11年 「三番叟」「オズの魔法使いたち」1公演 平成12年 古典公演 1公演 平成14年 「文七元結」「寿獅子」 1公演 平成15年 「伽羅先代萩」2公演／「三番叟」「弥次喜多道中記」「杜子春」「寿獅子」「証誠寺の狸ばやし」2公演 平成16年 「三番叟」「証誠寺の狸ばやし」他 7公演 平成18年 「寿獅子」「弥次喜多道中記」「杜子春」 1公演／「宮沢賢治の写し絵劇場～注文の多い料理店～」 6公演 平成19年 「三番叟」「証誠寺の狸ばやし」「寿獅子」「杜子春」 1公演／「宮沢賢治の写し絵劇場～注文の多い料理店～」解説、体験付 4公演 平成20年 「三番叟」「証誠寺の狸ばやし」「寿獅子」「杜子春」5公演／「糸あやつり人形の世界」 1公演／「宮沢賢治の写し絵劇場～注文の多い料理店～」解説、体験付 4公演 平成29年 親子で楽しむ 人形×リーディング「あらしのよるに」 1公演／「三番叟」「寿獅子」 3公演 「伊達娘恋緋鹿子」「伽羅先代萩」「本朝二十四孝」 2公演／「文七元結」 3公演 平成30年 「千人塚」「寿獅子」 4公演 令和2年 「東海道中膝栗毛」(新内語りでの上演は2～30年振り)「本朝廿四孝」 7公演 令和4年 「寿獅子」「伊達娘恋緋鹿子」「東海道中膝栗毛」 7公演</p>
<p>特別支援学校等における 公演実績</p>	<ul style="list-style-type: none"> 平成20年 小金井市 小学校 3校(通常クラスとの合同にて、体験と鑑賞実施) 平成30年 北海道 札幌市 豊成養護学校 1校 令和元年 東京都立墨東特別支援学校 本校 小学部・中高部/病院内分校 3校(計5公演) ※都立東部療育センター、国立がん研究センター中央病院、聖路加国際病院 令和2年 東京都立足立特別支援学校 1校(計3ステージ) 令和3年 東京都立調布特別支援学校 1校(体験)

参考資料の有無	申請する演目のWEB公開資料	有		
	※公開資料有の場合URL			
	※閲覧に権限が必要な場合のIDおよびパスワード	ID:	なし	
		PW:	なし	

別添	あり
----	----

公演・ワークショップの内容

【公演団体名 公益財団法人江戸糸あやつり人形結城座】

対象	小学生(低学年)	○	小学生(中学年)	○
	小学生(高学年)	○	中学生	○
企画名	江戸糸あやつり人形芝居『タクボク 雲はミチズレ』			
企画のねらい	<p>本企画では、400年の伝統をもつ江戸糸あやつり人形の繊細な表現を間近で「感じて」、子供たち一人一人が実際「触れ」て、さらにその技芸や表現を生かした人形芝居の「鑑賞」を通して、より深く理解し、豊かな経験となる事を目的とします。</p> <p>ワークショップでは、人形を遣っての自己表現や友達とのコミュニケーションを通じて、子供達のメタ認知の能力や想像力、自ら学び、考えて表現する力を育みます。</p> <p>鑑賞では、昨今の深刻な教員不足をはじめ、様々な社会問題が子供たちの学びや社会性、心の育成へのしわ寄せとなり得る現代だからこそ、「学校はただ先生から知識や技能を教えてもらうだけではなく、友達や先生と一緒にのびのびと楽しく学ぶ中で、人生を教えてくれる場所である」という子供たちの自由な学びへの理想郷を描いた石川啄木「雲は天才である」を題材にした演目を、歌などを織り交ぜながら楽しく子供たちに届けます。</p> <p>人形芝居は擬人的表現で分かりやすいため、演目を初めて見る子供たちにも受け入れやすく、また、生の舞台表現は想像力を豊かにします。</p> <p>子供たちが自ら学ぶ過程で日本の伝統文化を身近に感じ、自由で豊かな学びの一助となることを目標としています。</p>			
演目概要・演目選択理由	<p>【演目概要】 『タクボク 雲はミチズレ』 原作:石川啄木、台本・演出:加藤直、人形デザイン:伊波二郎 <あらすじ> 雲と遊び風と戯れ、糸あやつり人形の一座が旅をしていた。お客が待つ次の劇場へ向かう途中のことだった。ふと気が付くと一座の代表的古典作品の主役の人形がいないじゃないか！皆で探していると道の辻に一冊のノートが落ちている。イシカワハジメー啄木ーという新米の教師が書いた日記らしい。歌や奇妙な話が満載だ。 舞台は、いつかどこかにあつたに違いない楽しくも滑稽な「ガッコウ」。ここでは、ハジメ先生(啄木先生)が作ったウタをみんなで歌って踊っています。ちょっと変わった先生たち・ウナギ校長、ススクランプ教頭、マ・ドンナ先生、マダム馬鈴薯ーと元気で素直な村の子供たちとで繰り広げる、ユニークな学校生活。そこにはサルも加わって、さらに風來坊のドクガンリュウとイヌ丸もやってきて……自然について、歌について、様々なことを学びます。 <作品概要> 石川啄木が母校洪民小学校の代用教員を一年勤めた体験を基に執筆し、学校教育への理想や子供達の自由な学びへの想いが詰まった「雲は天才である」を原作にした作品です。本作は子ども達にとって身近な場所である学校を舞台にして、啄木の人となりや、短歌や歌を織り交ぜ、さらに伝統の技芸を生かした江戸糸あやつり人形で豊かに表現します。子どもたちが人形に自分を重ねることで、人との関わりを学ぶきっかけとなる作品です。 本作は、2012年の啄木没後100周年を記念して、石川啄木記念館がある岩手県盛岡市にて東日本大震災の復興としての意味あいも託され初演しました。2020年にはコロナ禍からの復興を目指し、新たに書き下ろして演じました。旅公演では子供にも分かりやすいと好評を得ました。脚本・演出の加藤直氏は演劇・オペラ・ミュージカルなどの演出を数多く手掛ける劇作家・演出家であり、結城座とは1970年代より交流を深め、幅広い世代に向けた作品を生み出しています。</p> <p>【演目選択理由】 本作では、主人公「石川ハジメ先生」が、原作のタイトルにもある「雲」をはじめ、私たちの興味を引き出し、自ら学び考える楽しさを教えてくれる自然の中で、「課外授業」として自由な学びを教えてください。 鑑賞する子供たちが、作中の個性的な人形たちと自分を重ね合わせることで、自分も物語の中にいるような感覚で他人の気持ちを想像したり、思いやることができる本作を選択しました。 また、現代の教育現場では、教員不足で子供と向き合う時間が十分でない中、先生たちは仕事の量・質ともに高水準を求められ多忙を極めています。また学校と地域社会とのつながりが希薄化し社会の教育力が低下していることも問題視されています。 啄木も当時すでに、多忙を極める教師を取り巻く周囲の状況が、生徒の教育へのしわ寄せとなることを指摘し、教育の改善を提唱していました。さらに最近では、社会が急速にデジタル化する中、「ICT教育」など国の方針として生徒一人一台のタブレット端末配布等が押し進められ、様々な効率化が期待される一方、デジタル以外の人とのつながりや対話の減少、深い思考力や豊かな情緒の欠如も危惧されています。そんな現代だからこそ、見えないものの本質を見事にたった31文字に込めた歌人・石川啄木の短歌の世界と子供たちの学びへの想いを、生の人形芝居の表現と合わせて想像力をいっぱい広げて感じてほしいと思います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・劇中石川啄木の短歌は、口語体で日常的な主題が多く、現代の子供たちでも意味が想像できて、色々なイメージを働かせてくれます。(例:「いろいろの形はあれどむつかしき我の心に似る雲はなし」一本作台本より) ・ワークショップの中で江戸糸あやつり人形に触れた自由な感想を31文字にしてもらい、それを本番舞台に取り入れます。 ・劇中には現代の子供達にはより身近な「歌」もあり、一緒に歌唱することで子供たちの自然な興味を引きだします。 ・本作のストーリーでは、結城座の代表的な古典演目「八百屋お七」の人形も登場し、熟練の人形遣いが女形を操演、現代劇と古典演目の構成の違いやそれぞれの面白さを子供でも分かりやすく鑑賞できます。 <p>※別添:石川啄木と原作『雲は天才である』について</p>			

<p>児童・生徒の参加又は体験の形態</p>	<p>●ワークショップ体験形態 <人形体験> ・江戸の知恵と文化が詰まった江戸糸あやつり人形の歴史と、人形の機構を解説します。 ・事前に子供たちの身長に合わせて製作した人形を、実際に持って体験して頂きます。 ・人形遣いが数人に対して一人ずつ付き、丁寧に「手板(ていた)」(操作板)の持ち方や、糸を使った人形のあやつり方を教えます。また、台詞を言いながら人形をあやつることや、人形を通した簡単なコミュニケーションにも挑戦していただきます。 ・順番に全員が人形に触れ、また友達があやつる様子も鑑賞して、興味を一層深められるよう働きかけます。 ※多人数となる場合は、グループに分かれるなどして実施致します。</p> <p><短歌> ・ワークショップを通して思ったことを、5・7・5・7・7の文字数に自由に当てはめて短歌を作り、数名の生徒に代表して人形をあやつりながら発表してもらいます。</p> <p>(共演に向けて) ・WS参加者全員で台詞と、自分で考えた短歌に合わせて人形を操るなどの稽古を行います。 ・劇中の歌「渋谷小学校校歌」は練習し、本公演では全員で歌います。</p> <p>●共演形態 ・事前のワークショップ参加者の中から20～30人の子供たちに、本公演に参加して頂きます。 ・結城座独自の、台詞を言いながら人形を遣い演じるという表現方法を体験し公演に参加していただきます。 ・公演冒頭の人形解説で、ワークショップ内容も振り返りながら鑑賞します。</p>		
<p>児童・生徒の参加可能人数</p>	<p>本公演</p>	<p>参加・体験人数目安</p>	<p>本番:人形遣っての共演20名程度、歌参加全員 ワークショップ:～100人(以上はご相談)</p>
<p>本公演演目 原作/作曲 脚本 演出/振付</p>	<p>人形の解説(15分) 『タクボク 雲は旅のミチズレ』(60分)</p> <p>※人形の解説では、日本独自の四角い手板(操作板)をお見せし、実際に人形を見せながら、基本の17本の糸が手板と人形のどこについていて、それぞれ何の糸なのか動かしながら分かりやすく説明します。</p> <p>原作:石川啄木、台本・演出:加藤直、人形デザイン:伊波二郎</p> <p style="text-align: right;">公演時間 75 分</p>		
<p>出演者</p>	<p>●人形遣い7名 三代目 両川船遊(十二代目結城孫三郎) 十三代目 結城孫三郎 結城育子/湯本アキ/小貫泰明/大浦恵実/安藤光</p>		
<p>演目の芸術上の中核となる者(メインキャスト、メインスタッフ、指揮者、芸術監督等)の個人略歴 ※3名程度 ※3行程度/名</p>	<p>●十三代目 結城孫三郎(じゅうさんだいめ ゆうきまごさぶろう) 十二代目結城孫三郎の長男。1985年『夢童子 ゆめ草紙』『寿獅子』にて5歳で初舞台。『寿獅子』では故・結城雪斎(十代目孫三郎)と共に仔獅子を披露。2005年『夢の浮橋～人形たちとの源氏物語～』(演出:佐藤信)以降、結城座公演のすべてに参加。2021年6月、「結城数馬改め十三代目結城孫三郎襲名披露公演」にて十三代目結城孫三郎を襲名。</p> <p>●三代目 両川船遊(さんだいめ りょうかわせんゆう) / 元十二代目結城孫三郎 十代目結城孫三郎の次男、4歳で初舞台。3歳から日本舞踊を学び、11歳から武智歌舞伎に入門。72年写し絵家元三代目両川船遊を襲名。93年十二代目結城孫三郎を襲名。2021年6月、長男に結城孫三郎の名跡を譲り、両川船遊の一つ名前に戻る。2021年第42回松尾芸能賞 特別賞受賞。古典演目だけでなく、国内外の演劇人たちとの芝居作りも意欲的に取り組む。若手育成にも力を注ぎ、ワークショップや長期的など様々な形で広く普及・啓発に努める。また、江戸写し絵の継承者としても活躍。</p> <p>●結城育子(ゆうきいくこ) 大学の頃より人形浄瑠璃に関心があり、1975年に結城座へ入座。1977年のヴォイツェクの子供役が初舞台。現在では雪斎に人形を、素京に義太夫の教えを受けた唯一の座員。江戸糸あやつり人形の技を受け継ぐ人形遣いとして、日本各地で人形体験ワークショップの主講師を務めている。両川船遊とともに広く普及・啓発に努める</p>		

本公演 従事予定者数 (1公演あたり) ※ドライバー等 訪問する業者人数含 む	出演者: 7 名 スタッフ: 9 名 <hr/> 合 計: 16 名		運搬		積載量: 2 t 車 長: 6.5 m 台 数: 1 台			
本公演 会場設営の所要時間 (タイムスケジュール) の目安	前日仕込み		有		前日仕込み所要時間		3.5 時間程度	
	到着	仕込み		上演	内休憩	撤去	退出	
	9:00	準備・共演生徒最終確認 9:00～9:45		10:00～11:30	なし	12:00～15:30	15時30分	
※本公演時間の目安は、午後、概ね2時限分程度です。								
本公演 実施可能日数目安 <small>※実施可能時期について は、採択決定後に確認し ます。(大幅な変更は認め られません)</small>	6月		7月		8月		9月	
	5日		15日		0日		5日	
	10月		11月		12月		1月	
	0日		15日		10日		15日	
	※平日の実施可能日数目安をご記載ください。					計		65日
公演に係るビジュアルイメージ (舞台の規模や演出が わかる写真)	<p>・人形の大きさは60cm程度と小さいため、鑑賞しやすいよう舞台上で上演致します。また、糸あやつり人形の繊細な動きや人形芝居の醍醐味を存分に楽しんでいただくために、1回の鑑賞人数が200名を超える場合は2回公演をお勧めしております（必須ではありません）。</p> <p>舞台に必要な広さ：幅8～10m、奥行き：5m 舞台高：1m</p> <p>・大きな舞台セットはなく、学校の机と椅子のみで、小道具や照明などを効果的に用いて場面が転換します。</p> <p>・生徒たちの人形を目刺しという仕組みで一人の人形遣いが操っていますが、本公演では、共演する20名一人一人に子供の人形を一体ずつ操って頂きます。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">    </div>							
著作権、上演権利等 の 許諾状況	各種上演権、使用権等の許諾手続きの要否			該当なし		該当コンテンツ名		
	該当事項がある場合	権利者名		許諾確認状況				

※A4判3枚以内に収まるように作成してください。

別添	あり		
【公演団体名 公益財団法人江戸糸あやつり人形結城座】			
ワークショップのねらい	<p>日本の伝統文化の一つである江戸糸あやつり人形について、実際に人形に触れながら理解して頂き、人形の動きや仕掛けの面白さを入口に、389年の知恵と工夫が詰まった人形芝居の魅力を伝えます。日本の文化に楽しく触れながら、興味を深めるきっかけを作ります。</p> <p>・普段無意識に私たちが行っている、日本人の生活文化に根差した動作(正座やお辞儀など)を人形で表現できるよう、長い歴史の中で培ってきた技芸を学び、さらに自分でも人形を動かしてみることで、日本の文化を身近に感じることができます。</p> <p>・これまでの経験上、子供たちが自分で人形を動かしてみる中で、「こういう動きはできるかな」「こんなことをやってみよう」といったように、人形を通して表現することに対して自発的な取り組みが見受けられます。1人で1体の人形を台詞を言いながらあやつる、結城座独自の表現方法を通して、子どもたちの豊かな自己表現力を育む機会となります。</p> <p>・共演に向けた台詞も全員で練習しますが、舞台上での立ち位置などを意識して、子供たち同士息を合わせて台詞を練習する中で、生徒間のコミュニケーションを深めながら、舞台芸術に親しむ機会となります。</p>		
児童・生徒の参加可能人数	ワークショップ	参加人数目安	90分、最大100名
ワークショップ実施形態及び内容	<p>内容:約90分 江戸糸あやつり人形」についての歴史や基本構造、操作法などを解説後、体験していただきます。本公演の鑑賞に向けたワークショップを行います。 ※②は一人一人形を持って体験して頂くため、100名までの参加が理想的です。それ以上の人数の場合は時間を延長するなどご相談となります。</p> <p>①人形についてのお話 ・日本独自の四角い手板(操作板)をお見せし、人形を見せながら、基本の17本の糸が手板と人形のどこについていて、それぞれ何の糸なのか動かしながら説明します。 また人形の構造をより理解して頂くため、人形の裸の胴をお見せし、人形の胴の違いや、関節部分などの細かな所作を可能にする構造をご覧頂きます。</p> <p>②人形あやつり体験 事前に子供たちの身長に合わせて製作した人形を使用し、左手で手板(操作板)を持ち、右手で各糸をあやつる体験をして頂きます。 ・手板(操作板)を正しい持ち方で持つ ・まず、膝の糸を持つ ・膝の糸を遣って足踏みをする ・足踏みをしながら前進してみる ・手の糸を遣って自分の人形と友達の人形で握手をする、又は遣う糸を組み合わせ、鑑賞している友達の方を向いて手を振ってみるなど、人形を通して相手がいることを意識した簡単なコミュニケーションを取る</p> <p>・子供たち同士で簡単な人形芝居をして、台詞を言いながらの人形あやつりに挑戦します。公演で共演する実際の台詞もワークショップ参加者全員で稽古します。</p> <p>※順番に全員が体験します。また、友達があやつる様子も鑑賞し、理解と興味を一層深められるようにはたらきかけます。</p> <p>③本公演に向けた短歌と歌のワークショップ ・短歌の文字数31文字で、全員に今日のワークショップの感想を自由に書いてもらいます、数名の生徒に人形を遣って発表してもらいます。</p> <p>・本公演に向け、劇中の挿入歌「校歌」を皆で歌います。 ※本公演までの間練習できるよう、CDをお渡しします。</p>		
その他ワークショップに関する特記事項等	<p>別添：子ども参加WS ※WSでは舞台は使いません。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>②体験：10～15人ごとのグループで交代して全員が体験します。慣れてくると、行進や握手など様々な違い方に挑戦できます。</p> <p>①人形解説：講師を囲む形の半円形、または二列～三列横隊で座るのが望ましいです。</p>		

別添	なし
----	----

本事業への応募理由

【公演団体名 公益財団法人江戸糸あやつり人形結城座】

①本事業に対する取り組み姿勢

江戸糸あやつり人形に初めて出会う子供たちが、人形の動きや仕掛けの面白さを入口に、日本の文化を楽しく体験し、より身近に感じることが出来る機会を提供します。

感受性豊かな子供たちに、伝統の技芸が詰まった生の人形芝居を間近でお見せし、ワークショップでの体験を振り返って自分で様々なことに気づいて考えながら鑑賞できる機会にしたいと考えます。

日本の伝統文化の一つである江戸糸あやつり人形を、より多くの子供たちに伝えることを積み重ね、次世代へ伝統を継ぐ貴重な取り組みと考えております。

(1)本公演の演目について

“学校”を舞台にした演目で、江戸糸あやつり人形の伝統の技芸を楽しく身近に感じることが出来るだけでなく、石川啄木が原作『雲は天才である』に込めた子供たちの自由な学びへの想いを人形芝居を通じて届けます。

解説・ワークショップと合わせて、子供たちが人形の違いや仕掛けの工夫に自分で気づき、能動的に学ぶ機会にしたいと考えます。

(2)ワークショップについて

過去数回同演目にて巡回公演事業を行ってきましたが、人形を通して子供たち同士のコミュニケーションが深まり、かけがえのない経験となっております。

またある学校では国語の時間に人形浄瑠璃について学習しており、子供たちからは、実際に見たいと思っていた人形を間近で体験・鑑賞できてとても感動した、との感想が寄せられました。教科書の知識を身をもって体験することで子供たちの日本の伝統文化への理解・関心が一層深まり、積極的に学習する姿勢の涵養にも繋げることが出来ると考えます。

(3)生徒との共演について

プロの人形遣いと同じ舞台に立ち挑戦する、または、友達のを鑑賞することで、より江戸糸あやつり人形の世界を体感していただく機会にしたいと考えます。

共演を通して、様々な人々が関わり一つの舞台が作られていくことを、子供たちが知る機会にもしたいと考えます。

(4)特別支援学校等における取り組みについて

過去の特別支援学校等の公演・ワークショップでは、視力的に人形を見るのが難しいお子様や身体的に体験・鑑賞時に体を起こせないお子様でも、そのままの体勢で人形に触れてもらい、また、近くまで行って人形をあやつり、動く音を聞いて頂くなど、先生方と相談しながら臨機応変に対応しております。子供たちから自発的に触ろうと手を伸ばすなど、人形が生き生きと動く様子に興味を持って頂くことが多く、人形芝居や江戸文化の楽しさを体験して頂けると感じます。

本公演鑑賞では、演出の都合上会場を暗くします。完全な暗闇でなくても十分に鑑賞はしていただけますので、暗い所が苦手な子供たちや、その他にも大きな音や鑑賞時間などに制限がある場合など、子供たちの体と心の率直な現状をお聞かせいただき、事前準備と下見の段階で丁寧な相互のコミュニケーションを取って臨みたいと思います。字幕対応は出来ておりませんが、進行役が舞台前であらすじを交えながら親しみやすく進めて参りますので、どのようなシーンかはわかりやすいかと存じます。

②事業を効果的かつ円滑に実施するための工夫**・ワークショップや公演の事前の連絡、準備**

事前に、本事業(本公演)の主旨や関係資料を、電話、メール、FAX、郵送等でお送り、お伝えします。ご要望があればSkypeやZOOM、Google Meet等ビデオ通話・ビデオ会議にも対応できます。お送りする関係資料は、団体(江戸糸あやつり人形)の歴史や技法に関する教育用資料、公演の写真、DVD、上演台本です。必要があれば、実際にスタッフがご説明に参ります。また、ワークショップと本公演での共演についての参考資料・動画を事前にお送りし、具体的なイメージを共有することが可能です。

・ワークショップ実施のための打合せ

上記の事前の資料説明をした上で、訪問時には、授業実施の前に先生と詳細な進行の打合せを行った上で、ワークショップを実施します。

・公演実施のための打合せ

舞台仕込みの図面資料、タイムスケジュール等の詳細を事前に送付、舞台が初めての方にもわかりやすく説明します。また、ワークショップ訪問時に、会場下見をし、会場の寸法の計測や、公演の仕込・撤去に要する時間、用意するものの打合せ・確認を行い、本番に向けての情報を共有します。

本番当日の子供たちとの共演リハーサルにおいては、主指導者が中心となって子供たちにわかりやすい言葉でお伝えし、リハーサルを実施し、安心して本番に臨みます。

本事業に対する
取り組み姿勢、および
効果的かつ円滑に実施
するための工夫

別添 ※別添は1企画につき3枚までとします。※文字のポイントの変更は認めません。

リンク先	No.2	【公演団体名 公益財団法人江戸糸あやつり人形結城座】
別添:石川啄木と原作『雲は天才である』について	<p>別添:石川啄木と原作『雲は天才である』について</p> <p><石川啄木について> 1886年岩手県岩手郡日戸村(現盛岡市)で生まれ、その後洪民村に移り、高等小学校から盛岡中学までの少年期から青年期を盛岡で過ごし、洪民尋常小学校の代用教員を務めたあと北海道に渡り、後、東京に移住し、1912年26歳で没しました。 詩・短歌・小説・随筆など多様な執筆活動を続け、特に短歌は、天才詩人・望郷の歌人とも呼ばれ、多分野に影響を与えました。 また、啄木の文学は、100年以上前に既に、現代を見据えた先駆的な作品群であり、「雲は天才である」はその一つで啄木の小説第一作です。</p> <p><原作「雲は天才である」について> 1906年に啄木は育った洪民に戻り、母校洪民小学校の代用教員を一年勤め、その体験を基に書かれた小説第一作が「雲は天才である」です。 実際に啄木が代用教員を勤めた際には、朝読など課外授業での教育細目に捉われない授業の実践、授業以外の催しで生徒の自主性を高める試みで真摯に教育に力を注ぎました。 また、退任後も多忙を極める教師を取り巻く周囲の状況が、生徒の教育へのしわ寄せとなることを指摘するなど、その当時すでに教育の改善を提唱していました。 そんな実際の代用教員時代には実現が難しかった、啄木の学校教育への理想や子供達の自由な学びへの想いが詰まった作品です。 例えば作中の校歌は、教育勅語の内容を教える当時の多くの校歌とは全く異なり、夢や理想に向かって進む子供たちに、疲れた時はふるさとの自然があるよと歌っています。</p>	

別添 ※別添は1企画につき3枚までとします。※文字のポイントの変更は認めません。

リンク先	No.3	【公演団体名 公益財団法人江戸糸あやつり人形結城座】
	<p>別添子ども参加WS①盛岡ワークショップ②人形町公演</p> <p>令和3年にNPO法人いわてアートサポートセンターからの依頼を受け、盛岡で数年後の江戸糸あやつり人形子ども劇団の創立を目指し、継続事業として、小学3年生～高校生を対象にモデル上演と人形あやつり体験のWSを5回実施。(文化庁委託・子供たちのための伝統文化の体験機会回復事業「一日体験フェス」)</p> <p>その際、両川船遊、結城育子を中心に直接子供たちを指導し、成果発表として「和の文化祭」で地元の作家の作・演出で、もりおか町家物語館 浜藤ホールで舞台を上演した。</p> <p>別添盛岡ワークショップ</p> <p>2021年7月22日 伝統文化1日体験フェス(結城座のモデル上演『証城寺の狸ばやし』、人形あやつり体験)</p> <p>2021年8月～2022年1月 伝統文化子供教室もりおか (5回実施)</p> <p>2021年12月22日 子どもたちの和の文化祭 『カミがない和尚さん』(作・演出:藤原正教)</p> <p>2022年7月16日 伝統文化1日体験フェス(結城座のモデル上演、人形あやつり体験)</p> <p>2022年10月～11月 伝統文化子供教室in盛岡 (6回実施)</p> <p>2022年11月26日 子どもたちの和の文化祭 岩手の民話『空飛ぶ船』(作・演出:藤原正教)</p> <p>2023年7月15日 伝統文化1日体験フェス(結城座のモデル上演『三番叟』、人形あやつり体験)</p> <p>・2022年6月以降は手板及び人形の胴の製作について、2023年7月には糸の付け方なども十二代目結城孫三郎(現両川船遊)より直接指導を受けて、製作している。外部団体に対してのこうした指導は結城座としても初の試みとなる。2023年12月に第一回の公演を開催</p>	  <p>人形あやつり体験ワークショップの様子</p> <p>2021年『カミがない和尚さん』本番舞台写真</p>

その他ワークショップに
関する特記事項等

【参考資料】子供たちとの共演の様子

2023年11月3日(金)にぎょうちょうの人形市

「江戸糸あやつり人形結城座人形市公演～388年ぶりの里帰り公演～」

主催：人形町商店街協同組合

会場：中央区立日本橋社会教育会館



事前のあやつり体験ワークショップの様子



「東海道中膝栗毛～赤坂並木から卵塔場まで～」本番舞台での、台詞を言いながら人形をあやつるお芝居